

日本地震学会 Luncheon Seminar

<日時>

2009.10.21 (水) 12:45-13:45

<場所>

[日本地震学会2009年秋季大会](#)

京都大学・吉田キャンパス

時計台国際交流ホール I

<Seminarの趣旨>

減災に向けた取り組みを着実に進めていくためには、専門的な知見を有する研究者と、情報を社会に伝える報道機関との連携が欠かせません。

阪神・淡路大震災を経験した関西では、その反省と教訓を踏まえて、南海地震など来たるべき大災害に備えて、連携のための模索が始まっています。

有志による勉強会「関西なまずの会」の事例を基に、

建設的な連携を構築するための道を考えます。

(企画：関西なまずの会&日本地震学会広報委員会)

<次第>

1. 本セミナーの趣旨説明 安富信 (読売新聞大阪本社)

2. Keynote Speech 川崎一朗 (京都大学防災研究所)

「災害社会～何が求められているのか」

※参考文献 『災害社会』川崎一朗 (京都大学学術出版会、2009,04)

3. Discussion

〈進行〉 安富信 (読売新聞大阪本社)

〈報道〉 奥村健 (愛媛新聞社)

近藤誠司 (NHK大阪放送局)

瀬川茂子 (朝日新聞大阪本社)

永田和美 (KBS京都)

野田武 (毎日新聞大阪本社)

〈研究者〉 飯尾能久 (京都大学防災研究所)

矢守克也 (京都大学防災研究所)

4. まとめ 矢守克也（京都大学防災研究所）

